

1.1 建築計画を学ぶにあたって

1 建築とは

原始社会において、現代におけるすべての建築物の原型といえる住居は、人間にとって、外敵や厳しい自然環境から身を守るシェルター*1としての役割を果たしていた。その後文明が進歩し、社会の発展とともに、より複雑となった生活の中から多種多様な要求が生まれ、それに対応する機能をもつ建築物がつくられた。このように、人間の生活にとって必要な空間をもつ建築物を創造することを建築 (architecture) *2 という。

それでは人間にとって優れた建築物とはいかなるものだろうか。

それは、古くから建築の3要素といわれる「機能」「構造」「美しさ」*3を備え、互いに調和させた建築物である。生活の要求によって生まれる空間は、合理的に計画し、使用するすべての人間に対して配慮することにより、優れた機能をもつようになる。人間の安全を守る強い構造は、各時代の最先端の技術を用いて、その空間構成や規模から、適正な材料と構造形式を選ぶことによって確保される。そして、造形的な美しさは、空間を構成する寸法、ボリュームから生じるリズム、使用される材料の質感や色調などを統合したデザインから生まれる。これらの3要素を備えた建築物を創造する者を、建築家 (architect) と呼んでいる。

このように、人間の生活・要求・造形美に配慮した結果、今日までに図1.1に示すようにいろいろな用途の建築物を、建築家は生み出している。

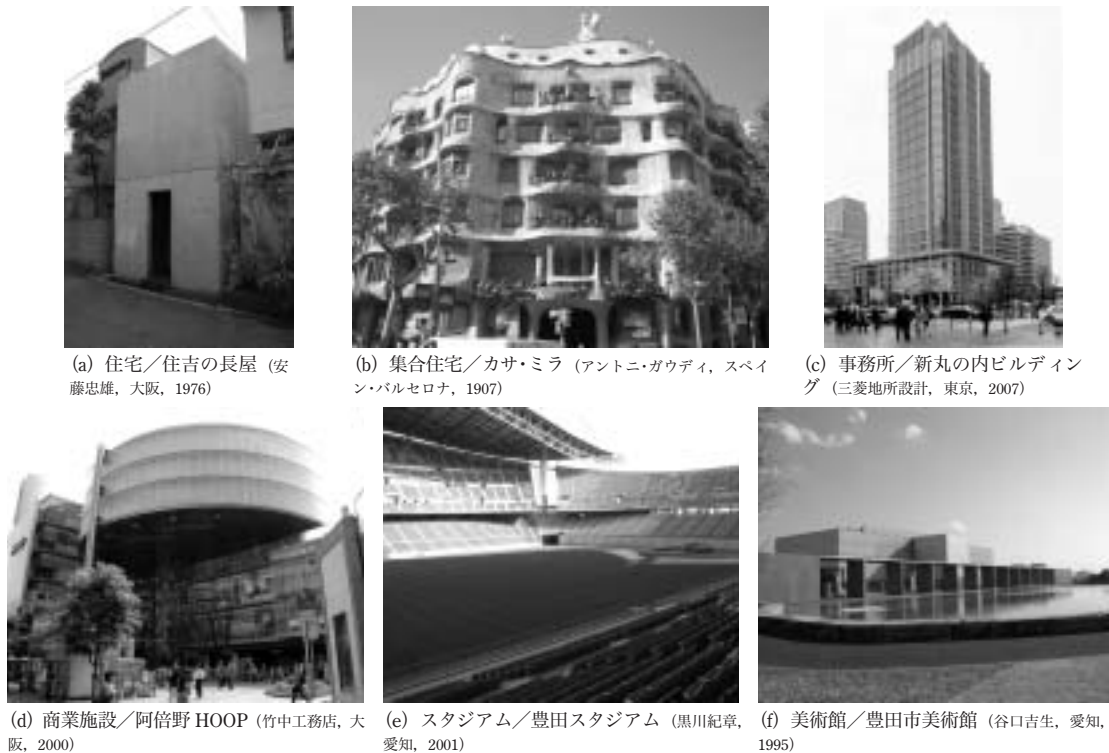


図 1.1 さまざまな建築物

- * 1 雨風をしのぎ、外敵の侵入や攻撃に対して防御するための工作物をいう。
- * 2 建築という行為によってつくられたものも「建築」と呼ばれる。
- * 3 構造を機能の一つとして捉え、「機能」と「美しさ」の2要素とすることもある。

2 建築生産と建築計画

1) 建築生産の過程

建築生産とは、建築物を創造する生産活動のことであり、その過程は、図1.2に示すように、第一のステップの企画・計画・設計から、第二のステップの施工・竣工へ、第三のステップの運用・保全を経て、第四のステップのリノベーション*1、解体・廃棄、リサイクルへと続く。以前は、建築物の竣工が建築生産における完結であると考えられていたが、実際は、運用の始まりが維持保全 (メンテナンス) の始まりであり、ある一定の期間を過ぎると、リノベーション、コンバージョン*2など建築に対する要求が現れる。加えて、長い利用の後に耐用年数が過ぎ、解体・廃棄せざるを得ない状態になっても、地球環境の負荷軽減のための資材のリサイクルが、建築の分野においても必要不可欠なものになってきているのである。

2) 建築計画の役割・進め方

建築計画の役割は、企画を受け、そこに定められた目標の実現に向け諸条件を整理し、コンセプト*3を決め、空間相互のつながりを検討して、建築の全体像まとめることである。そして、その建築の具体的なイメージは、設計へと引き継がれることになる。この3つの段階は、お互いに関連性が強く、図1.3に示すように、それぞれの境界がはっきりしていない。また、企画から計画、計画から設計という流れは一方に向けてあるのではなく、段階ごとに検討し作業を進めていくなかで問題点や矛盾点が生じた場合、その都度フィードバックし再検討・調整を行う。そういった作業を繰り返すことによって、その内容はしだいに建築物の目的に見合ったものとなっていくのである (図1.4)。

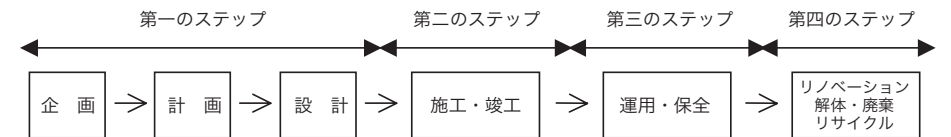


図 1.2 建築生産の過程

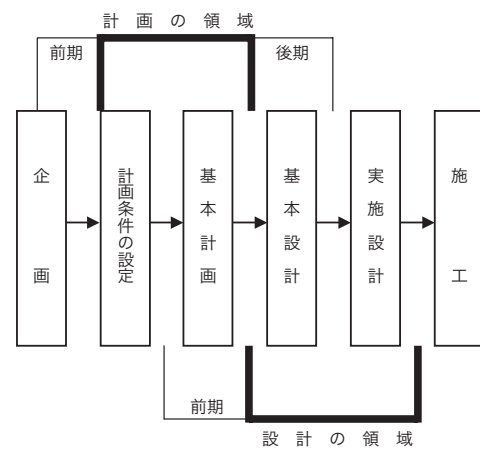


図 1.3 企画・計画・設計のプロセス

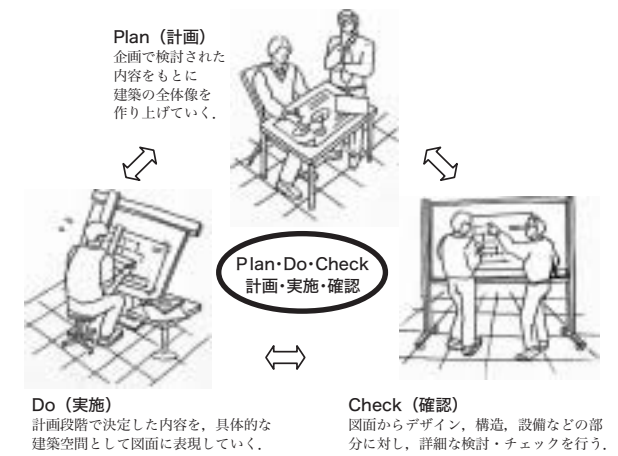


図 1.4 設計のサイクル (イラスト:門脇裕之)

- * 1 年月の経過によって、時代に合わなくなった建築物の機能・性能を建て替えず改修工事を行うことによって、時代の変化に合わせて初期の機能・性能以上に向上させることをいう。
- * 2 用途転用・変更、建築物の機能転換。
- * 3 全体像を明確にするための概念および目標。